

平群の古墳

平群は古墳の宝庫です。わかりやすいのをいくつか紹介しましょう。

烏土塚(うどづか)古墳



竜田川駅から西へ400m程。烏土塚古墳は、住宅地の真ん中にある古墳時代後期の古墳で、古墳の前はおおきな釣り堀になっている。



墳丘長60.5m, 前方幅31m, 後円部径35mの前方後円墳。主体部は両袖式の横穴式石室。古墳時代後期(6世紀後半)の築造と推測されている。竜田川西岸の南北に延びる独立丘に築造された、平群谷最大の古墳で、巨石を用いた両袖式の横穴式石室が南に開口している。発掘調査で馬具、武具、埴輪、土器類が出土。奈良県で最後の埴輪使用例として、国史蹟に指定されている。

次に紹介する長屋王墓とともに平群を代表する古墳のひとつである。

長屋王墓



平群谷の北より、矢田丘陵より西に長く延びる丘陵の南斜面裾にある塚で、直径



15m、高さ1.5m程の円墳状をしている。宮内庁により明治34年に、奈良時代初期の皇親政治家、長屋王の墳墓に治定されている。現在は方形の石垣と生垣で囲まれ、南側に参道が取り付いている。

『続日本紀』神亀6年(729)には、正妻の吉備内親王と共に「生駒山に葬る」とのみ記され、明確な葬地は示されていない。そして、約千年後の江戸中期にまとめられた『大和志』に、「双墓 梨本村にあり一は長墓と称し左大臣正二位長屋王、一は宇司墓と称し二品吉備内親王」と記され、梨本の2つの塚が夫妻の墓とされている。

吉備内親王墓



平群駅の北約 500m の所にある 2 つの古墳が、江戸時代の伝承にもとづき、奈良時代の左大臣長屋王とその夫人吉備内親王の墓に治定されている。墓はいずれも円墳で、前者が径 15m、後者が径 20m である。記録によると大正 2 年の報告に、宮内庁によって現在の形に整備されたとある。

西宮古墳



平群中央公園の入り口脇に西宮古墳がある。周りは土嚢で固められ、築造当時を復元して

いる。廿日山（はつかやま）丘陵南側の緩斜面に築造された、一辺 36m、高さ 7m 程の方墳で二段のテラスを持つ三段築造で、全面に貼石を施していたと考えられる。石棺は兵庫県から運んできたとあり、埋葬者は相当な権力を保持していたのがうかがえる。

剣上塚(けんじょうづか)古墳



円筒埴輪列が発見され、形象埴輪(器種不明)の破片、須恵器片なども確認されている。その形態から 6 世紀前半頃の築造と考えられている。墳丘に直接木棺を埋葬した「木棺直葬」の可能性はある。

